

フがいるという。その数は海洋の分野だけではもちろんないが、人と金をふんだんにつぎ込む国と、人も金もりょうりょうたる日本と比較して、われわれは学問的エネルギーの用い方をよく考えなければならぬと痛感した。

Frontiers session の中で、R.W. Stewart の GARP の話があった。1970年東京の合同海洋学会議のとき、彼が、SCOR からスパイとしての GARP の委員会に送り込まれたのだという海洋学者にハッパをかけていたが、今回も、海洋学者にハッパをかけるのが目的のよう

な話をした。海洋には、大気に大きい影響をもつに違いない現象が確かにあるが、その実態が何か、またどんな作用があるのか、ちょっとわかっていない。時間的空間的に割合規模の小さい鉛直過程と割合規模の大きい水平移流とを区別して、統計的なことより、メカニズムを明らかにするような観測をすべきこと、「できること」と「やって意味のあること」をよく考えて観測すべきことなどを強調していた。日本の海洋物理のパワーはどうしたら高まるであろうか。

第17期第17回常任理事会議事録

日時 昭和49年3月12日(火) 14.00~18.00
場所 気象庁観測部会議室
出席者 磯野, 中山, 神山, 丸山, 駒林, 大井, 川村, 伊藤, 窪田, 二宮各常任理事

報告

〔庶務〕 2月27日(財)東レ科学振興会々長から、科学技術研究助成金受領者決定の通知がきた。石川晴治会員(名大, 空電研究所)に600万円助成, 角皆静男会員(北大, 水産学部)は入選しなかった。

〔集誌〕 別刷が遅れて No. 5, No. 6 はまだ発送されていない。前回常任理事会で報告したように印刷会社と打合わせるので改善を期待している。

〔ノート〕 別刷は、部数が多くなるほど安くなる。

〔用語〕 文部省の承認待ちであるが近く承認されるだろう。

〔南極〕 1. 第17次南極地域観測研究観測計画として、下記の研究を学会として推薦し、理事長名で推薦書を出す。

研究題目 南極におけるエーロゾルおよび微量気体成分の研究観測

研究担当者 主任研究者 齋藤博英
研究者 小野 晃 田中豊顕
伊藤朋之 松原広司
川口貞男 関原 疆
村井潔三 後藤良三
川村 清

推薦書あて先 極地研究所宙空専門委員会
気象分科会 山本義一

2. 春季大会第3日夜(予定)に POLEX に関するインフォーマルミーティングを行う。

議題

1. 総会提出議題について

(1) 会費値上げに伴う定款の一部改正
通常会員、外国人会員および団体会員の会費を約30%値上げする。

(2) 会員の資格についての定款および細則の一部改正
会費を1年以上納付しなかった場合には、常任理事会は、その会員が自ら退会したものとみなすことができることにする。

(3) 中部支部設置のための細則の一部改正
関東地区のうち富山, 石川, 福井, 長野, 静岡, 三重, 愛知, 岐阜の各県を分離し、中部地区を設置し、理事の定数を2名とする。これに伴い関東地区の理事定数を13名とする。

(4) 昭和49年度予算(案)
次の点を取り入れれ会計理事が作成する。
イ. 会費を約30%値上げする。
ロ. 天気編集費を28,240円増額する。
ハ. 前回常任理事会までに決めた常勤事務局員1名の増員を取り止め、人件費は3人分を計上する。
ニ. 事務局員が一名交替するのでできるだけ早く編集業務と事務とができるような人をさがす。
ホ. 昭和50年度会費の前納金に食い込むのもやむを得ない。

2. 昭和48年度事業経過報告(案)
次回さらに検討する。
3. 学術雑誌の郵便料金を据置くための協力要請について: 郵政大臣に陳情し、関係学、協会に協力を依頼する。

4. 常任理事および講演企画委員会委員の変更について: 窪田常任理事の辞任を了承し後任に竹内理事を推薦する。清水逸郎委員の辞任と後任に福谷博(高層課)を了承する。(本件は全理事に書面審査を依頼する)
承認事項 古沢千尋ほか1名の入会を承認